

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2007～2008 年度  
 課題番号：19530343  
 研究課題名（和文） 起業家の行為プロセスに基づいたスタートアップ支援に関する研究

研究課題名（英文 The research for the start-up support activities approaching from the behavioral process of entrepreneurs.

研究代表者

稲垣京輔（INAGAKI KYOSUKE）

横浜市立大学・国際総合科学部・准教授

研究者番号：10327140

研究成果の概要：本研究では、インキュベーション施設を調査対象としながら、起業家とインキュベーション、あるいは起業家間の関係がどのような形で起業家活動やキャリア形成に影響を及ぼすかについて、半構造インタビュー調査に基づきながら分析をおこなった。その結果、インキュベーション施設による支援が産業クラスター形成による地域に根ざした濃密な企業間関係の構築を目的としているものの、起業家が自分の個々のビジネスを安定化、発展させていくことが第一義的な目的である以上、インキュベーション施設によるクラスター形成の目的に反する起業家が数多く存在することが確認された。さらにインキュベーション施設の目的に同調する起業家も、一枚岩的な理念の共有がおこなわれていないことが明らかになった。とりわけ、資源動員の場合としてインキュベーションを活用する事例が多く、グループ化によって地域内で新たな秩序を形成していく企業はわずかであった。

#### 交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2008年度	1,700,000	510,000	2,210,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・経営学

キーワード：行為プロセス インキュベーション施設 起業家活動

#### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、起業家の行為プロセスに焦点をあてることによって、起業家と彼らを取り巻く社会的状況を含めた起業のメカニズムを明らかにし、スタートアップの支援施策のあり方を模索する。

近年の欧州における学会では起業家の行動を解明する上で、社会学や文化人類学の知見を取り入れた研究が盛んである。*Journal of Business Venturing*誌において2002年に定性的方法論（qualitative methods）の特集が生まれ、社会学、人類

学におけるエスノグラフィーや参与観察、インタビュー法に基づいた起業現象への接近が紹介され、起業家の主観的世界の記述と分析の必要性が指摘されている。更に、HjorthとSteyaert (2004)では、科学的方法論における言語論的転回に基づいた研究が行われ、社会構成主義の立場からフィールドワークが実践されるなど、欧米において起業家の行為プロセス解明を目指した方法論の整備が進められている。また、起業家の持つネットワーク構造だけでなく、そのネットワークの中でどのような関係性のダイナミクスが見られるのかという点が重要になりつつある。中でも、認知や学習という概念が起業家の行為を分析するうえで導入されるようになってきている。直近では、2005年に*Entrepreneurship Theory & Practice*誌において起業家を主体とした学習に関する特集が組まれた。起業家の学習は、起業家のキャリアの中での体験を機会認識の知識として転換するプロセス (Politis, 2005) として捉えられ、単なる体験だけではなく前職などのキャリアや既存の知識や考え方が動員されている点が着目された。こうした相互作用の内容に関する研究は、濃密な記述に基づいた調査資料の中から、因果プロセスを明らかにする研究として行われており、しかも起業家の行為プロセスを解明するアプローチが欧米では実践的な知識として生かされつつある段階にまで達している。

それに対して日本の起業家活動における実践的議論では、主にベンチャー支援における投資実績から制度面における課題や制度を補完するスキームが主に指摘されてきた。また、社会ネットワーク論や組織論を背景とした研究でも、起業に有利なネットワークというような構造的な捉え方が支配的で、起業家の変化に焦点を当てた動的な研究は数が少ない。上記のような欧米における新たな研究からの知見は、施策立案レベルにおいて反映されないだけでなく、研究実践においてもほとんど活用されてこなかった。ところが現実には、起業開業率が低い日本では、起業家の認知や学習、あるいは起業家を取り巻く制度的な枠組みのレベルにおいて、どのような要因がボトルネックとなっているのかという特徴を捉えることが急務の課題となっており、そうした問題に対応できるようなインプリケーションを示唆していくことが、ベンチャー研究の理論知と実践知レベルの両面において重要なテーマとなっている。

本研究の申請者は、それぞれが個別のフィールドに適したやり方でインタビュー調査を展開し、異なる方法論を用いながら事例研究を進めてきているものの、起業家の

行為プロセスの分析をおこなっているという共通点を持っている。稲垣(2005)は、イタリア地域産業の事例の中で成功した起業家の行為が影響力となって後続の起業家のモチベーションや学習の対象となることを示し、キャリアや組織のあり方によって影響力の伝播の経路が異なることを明らかにした。山田(2006)は、香川県のベンチャー企業を事例としながら、起業家チームの形成プロセスの中で、事前合理性が極めて不確実な創業初期の状況において、どのようにメンバー間の役割分担が成立するのかという点に焦点を当てた。高橋・宇田(2005)の研究では、インキュベーション施設のパフォーマンスが、その施設に入居している起業家と施設管理者との相互関係によって左右されるという点を関西のインキュベーション施設の事例の中で明らかにしてきた。しかしながら、相互参照する形で理論を再検討し、事例へのアプローチに整合性を持たせるといった作業をしてこなかった。本研究では、近年の最新の動向をレビューしながら課題のすり合わせをおこない、事例へのアプローチとして統一的な手法とルールを開発しながら、相互に参照・共有できる一次資料と研究成果を蓄積していくことが求められた。

## 2. 研究の目的

本研究では、創業支援組織に入居する起業家や大学発ベンチャーにおける起業家というように、社会的な現象として起業家の行為連鎖に着目しながら、新しい事業創造とスタートアップのプロセスについて明らかにする。その中で、とくに次の3つの点を明らかにする。

第一に、資源としてのネットワークと関係性のダイナミクスである。山田は、起業家チームのメンバー間の役割分担を成立させる行為の連続性について探求を進める。とりわけプロジェクト・チームにおける機能分担や補完性に注目し、異質な知識(技術、市場、経営など)の結合によるイノベーションを目指す活動において、複数の中心的な役割を果たす人物の関係の有機性を明らかにする。

第二に、起業家が社会的な環境の中で、支援者などとの間でおこなう学習についてである。稲垣は、成功した起業家の行為による後続の起業家の学習行為に対する影響力を示したが、本研究では、インキュベーション施設の中で、入居者である起業家がどのような学習をしているのかについて明らかにする。中でも、施設管理者の入居者への働きかけによって、どのように入居者間の相互関係が規定されるのか、さらにそこ

からどのような学習の促進効果が見られるのかについて明らかにする。

第三に、起業家を取り巻く制度的な枠組みの変動である。高橋と宇田は、引き続きインキュベーション施設の活動パフォーマンスについて明らかにすることが目的であるが、入居している起業家と施設管理者という二者間関係から視点を広げ、研究者、行政、金融機関を含めたより広範なネットワークの形成として、その連続的な相互作用から起業家の行為を捉える。そこでは、ネットワークを構成する人々の戦略性に注目することで、制度的枠組みの刷新の中で起業という社会的現象が構成されるプロセスを明らかにする。

### 3. 研究の方法

本研究はフィールドワークでの聞き取り調査に基づく記述を資料として蓄積し、さらに同じ対象について2時点間の変化を記述する形でインタビューをおこなう、いわゆる定点観測の方法を採用した。

また、本研究で作成された一次資料に関しては、次の2つの学術的な意義を持つ。  
①追検証が可能な形で一次資料を蓄積することによって、日本のベンチャー企業のスタートアップ・プロセスについて記述する事例を国際比較可能なものにしていくことである。研究メンバーによるこれまでの研究では、企業のスタートアップ初期の段階における起業家の行動を捉える上で、パートナーや支援者との相互作用によって生じる変化の因果プロセスが重要であり、起業家の行動が同型化圧力に抗して異なる規範や正当性を生み出していくプロセスとして描かれてきた。しかしながら、行為を記述する研究に対しては、ナラティブな資料が公開されずにどれも追検証が不可能であることが指摘されてきた。

②欧米の文献による方法論と位置づける形で、日本の事例において起業家活動の行為プロセスを明らかにする点である。これまでの国内における起業家研究の多くが、地域経済や中小企業の関心とリンクさせる形ですすめられてきており、必ずしも国際学術誌で位置づけられるような理論的枠組みに沿った形でおこなわれてこなかった。そのため、日本の起業家行動の実態を国際比較として位置づけることが難しかった。本研究は、日本の起業家によるスタートアップ・プロセスの事例を海外の事例と比較する上での、基礎的な資料として提供しようとするところに方法論的な特色がある。

### 4. 研究成果

Takahashi(2008)および宇田・高橋(2007); (2008)は、インキュベーション施設

を利用するクリエイターの行為戦略に着目し、言説分析を用いて起業家の行為を分析してきた。ここで得られた新たな発見事実は、インキュベーション施設の戦略的利用を試みるアクターが、施設管理者に限らず、様々なアクターがそれぞれの戦略的意図に基づき、資源動員の場としてのインキュベーション施設の姿を浮き彫りにした。また、フリーランス・クリエイターとクライアント企業、広告会社と、研究者をアクターとしてそれぞれ主体間に権力関係が潜んでいることを明らかにした。

稲垣&高橋による一連の学会報告では、同様の研究対象をもとに、地理的に近接した起業家間で既存の取引関係を超越してどのような関係を形成するかに着目した研究成果を報告した。本研究では、起業家間の行為の連鎖がどのような形で起業家活動に影響を及ぼすかについて、半構造インタビュー調査に基づきながら分析をおこなった。その結果、インキュベーション施設による支援が産業クラスター形成による地域に根ざした濃密な企業間関係の構築を目的としているものの、その目的に反する起業家が数多く存在することが確認された。さらにインキュベーション施設の目的に同調する起業家も、一枚岩的な理念の共有がおこなわれていないことが明らかになった。とりわけ、資源動員の場としてインキュベーションを活用する事例が多く、グループ化によって地域内で新たな秩序を形成していく企業はわずかであることが確認された。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5件)

松嶋登・高橋勲徳(2008)「制度的企業家の理論的射程」神戸大学経営学研究科

Discussion paper series 2008-39

高橋勲徳(2008)「埋め込まれた企業家の企業家精神：神戸元町界隈における華僑コミュニティを事例として」『日本ベンチャー学会学会誌 ベンチャーズレビュー』第4巻 23-32頁。

宇田忠司(2007)「境界のないキャリア概念の展開と課題」『経済学研究(北海道大学)』, 第57巻第1号, pp.63-84。

宇田忠司・高橋勲徳(2007)「インキュベーション施設におけるクリエイターのア

イデンティティと行為戦略の発現メカニズム」首都大学東京リサーチペーパー、VB-07-05, 25 頁。

宇田忠司・高橋勅徳 (2008) 「制度的企業家の言説分析—フリーランス・クリエイターの世界—」 Discussion Paper (北海道大学) Series B, No.2008-79, 27 頁。

[学会発表] (計 4 件)

桑田耕太郎・松嶋登・高橋勅徳・水越康介・山口みどり・宇田忠司 (2008) 「制度的企業家をめぐる理論射程の経験的検討」組織学会研究発表大会、神戸大学。

稲垣京輔・高橋勅徳 (2008) 「支配的な組織フィールドにおける起業戦略の多様性」企業家研究フォーラム年次大会、大阪大学。

稲垣京輔・高橋勅徳 (2008) 「企業家の事業空間の再構築と地域内活動における意味形成」日本経営学会年次大会、一橋大学。

稲垣京輔・高橋勅徳 (2008) 「起業家の地域での関係構築に対するコミットメントと事業空間の多様性」日本ベンチャー学会全国大会、神戸大学。

[図書] (計 3 件)

山田仁一郎 (2008) 「集合財としての地域コミュニティの再構築：広域商店街にみる地域活性化の本質」(明石芳彦編『ベンチャーが社会を変える』所収) ミネルヴァ書房。

高橋勅徳 (2008) 『企業家の社会的構成：組織/集団の再生産と企業家精神』滋賀大学研究叢書。

Takahashi M. (2008) "Analysis of the Innovation Process Created through the Management of Business Incubators in the Japanese Content Industry" in Hara, Kambayashi, Matsushima (eds) "*Industrial Innovation in Japan*, Routledge, Chap.11.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

ホームページ

<http://web.mac.com/inagakik/サイト4/起業家研究会.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

稲垣 京輔 (INAGAKI KYOSUKE)

横浜市立大学・国際総合科学部・准教授

研究者番号：10327140

### (2) 研究分担者

山田 仁一郎 (YAMADA JINICHIRO)

香川大学・経済学部・准教授

研究者番号：40325311

高橋 勅徳 (TAKAHASHI MISANORI)

滋賀大学・経済学部・准教授

研究者番号：70352482

宇田忠司 (UDA TADASHI)

北海道大学・大学院経済学研究科・講師

研究者番号：80431378

### (3) 連携研究者